

令和5年12月21日

メディア関係者・プラットフォーム事業者各位

令和6年1月21日(日) 午前10時~12時 オンライン開催
第6回 自殺報道のあり方を考える勉強会
～枠を越えたつながりが生む、更なる一歩～

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター（東京都千代田区、代表理事・清水康之、略称「JSCP」）は令和6年1月21日（日）、自殺報道に関する勉強会を開催致します。

自殺に関する報道は、その伝え方によって自殺者数が増加する「ウェルテル効果」を招くリスクがある一方、自殺を抑止する「パプゲーノ効果」をもたらすこともあります。世界保健機関（WHO）では、こうしたリスクを最小化しプラスの側面を最大化するため、[メディア関係者向けのガイドライン](#)を発行しています。本勉強会では2023年9月に公開された[最新版](#)（JSCPが翻訳中）の特徴や、旧版からの変更点についてご報告します。

過去の勉強会では参加者の皆さんから「既存の枠（社や部局等）を越えて取り組むにはどうしたらよいか？」といったご質問を複数お寄せいただきました。そこで今回の【事例報告】では、新たにつながることで、「いのちを守る報道・情報発信」に向けて更なる一歩を踏み出した以下の3社（団体）の取り組みについて、4名の方々に報告いただきます。ぜひ、ご参加ください。（※各氏の略歴は2頁目に記載）

■**小川 一氏/インターネットメディア協会** 同協会（会員61媒体）は2023年9月、「自殺報道についての考え方」をまとめました。協会内で議論を提起し取りまとめ役を担った小川氏は、元毎日新聞社会部長で、今は自殺対策のNPO職員でもあります。ネット上での自殺報道の拡散が課題となる昨今、社を越えた取り組みがなぜ必要なのか。小川氏自身の自殺報道への考え方の変化等についても伺います。 [記事公開中→詳細は2頁目へ](#)

■**芝岡 寛之氏/モイ株式会社** 取締役 サービス運用本部長 ツイキャスは国内最大級のライブ配信サービスで、ユーザー同士がつながるコミュニケーションの場であり「居場所」にもなっています。近年、動画配信サービス等で自殺や自傷を生中継する事案が発生し、視聴者に与える影響や配信者のケアなどが課題となっています。そうした事案を防ぐための取り組みを、ご報告いただきます。

■**山田 賢治氏/NHKアナウンス室** チーフ・アナウンサー 山田氏は、視聴者にニュースを届ける最終表現者として、自殺報道の原稿チェックから、声のトーンや表情も含めた表現について、視聴者に与える影響を考慮し試行錯誤を続けてきました。アナウンサーが注意すべき点をまとめた資料の作成などの取り組みを伺います。

■**秋山 度氏/NHK松山放送局** 記者 秋山氏は、科学文化部記者として有名人の訃報記事などに携わる中で、部局を越えた取り組みの必要性を感じてきました。最近作られた全国の報道現場での連絡相談の仕組みなどについて、お話しいただきます。

- 日 時： 令和6年1月21日（日） 午前10時~12時
- 対 象： メディア関係者、プラットフォーム事業者等
- 形 式： オンライン（Zoomウェビナー）
- 参加費： 無料
- 申し込み： 下記URLまたは右記QRコードから。

<https://forms.gle/SYJvPZzhkYx7H2jWA> **（1月18日（木）17時締め切り）**

※本勉強会は参加者をメディア関係者に限定しており、質疑等を安心して行っていただくために、勉強会の内容について取材や記事化をご遠慮いただいております。ご了承の上お申し込みください。



<登壇者 略歴>

■小川 一氏 (インターネットメディア協会)

1958年、京都市生まれ。1981年に毎日新聞社入社、社会部長、編集編成局長、取締役などを経て現在は客員編集委員。一般社団法人インターネットメディア協会・元理事、同協会自殺報道プロジェクトチームメンバー。2022年4月、NPO法人ライフリンクに入職、広報担当。 [小川氏へのインタビュー記事](#)を公開中。右記QRコードからもお読みいただけます。



■芝岡 寛之氏 (モイ株式会社 取締役 サービス運用本部長)

ジャストシステムやサイボウズでアプリ開発・研究に従事した後に独立。「ツイキャス」の黎明期から参画し、2013年モイ株式会社の取締役に就任。ツイキャスのユーザーサポート、コミュニティ運営、マーケティングなどサービス運用全般のマネジメントを担当。

■山田 賢治氏 (NHK アナウンス室 チーフ・アナウンサー)

2012年から5年間、Eテレ「ハートネットTV」キャスター。シリーズ「増える20代の自殺」「生きるためのテレビ」等で生きづらさを抱える人たちの声を聞き、自殺問題と向き合う。アナウンス室で自殺報道を考えるプロジェクトを結成し、現在に至る。

■秋山 度氏 (NHK 松山放送局 記者)

2012年NHK入局。記者職として福井放送局、水戸放送局を経て、2019年から報道局科学文化部に所属。主にITや消費者行政などを担当しながら、著名人の訃報取材の対応にも携わる。2023年8月から現所属。

「第6回 自殺報道のあり方を考える勉強会」プログラム (敬称略)

時間	プログラム	登壇者
10:00	開会の挨拶	清水康之 (JSCP 代表理事)
10:10	WHO 新旧ガイドラインの変更点について	JSCP
10:25	【事例報告1】インターネットメディア協会の「自殺報道についての考え方」公表について	小川 一 (インターネットメディア協会)
10:45	【事例報告2】ライブ配信サービス「ツイキャス」の取り組み	芝岡寛之 (モイ株式会社)
11:05	休憩	
11:10	【事例報告3】①アナウンサーの取り組み 最終表現者として ②報道現場での連絡相談の仕組みについて	山田賢治 (NHK アナウンス室) 秋山 度 (NHK 松山放送局)
11:35	質疑応答	小川、芝岡、山田、秋山、清水
11:55	閉会の挨拶	清水康之
12:00	アンケートのご記入	

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 [いのち支える自殺対策推進センター](#) 広報室：山寺、八木沼、伊江
press@jscp.or.jp / Tel. 03-6272-9446、070-8687-8666 (山寺) / Fax. 03-6272-9447